

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
 (文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)



グラウンドワーク三島の
 みなさへ、20周年記念
 おめでとうございます！
 イギリスから、GW三島の
 雪だるまちゃんと一緒に、
 お祝いのメッセージです。
 雪だるまちゃんの帽子も見てね！
 ロビン・ヘンショウのまごよい



ロビン・ヘンショウ氏
 英国GWオールダム&ロッヂデール元所長
 GW三島シニア・アドバイザー

ZEROGO-ME (ぜろごうめ=0合目)三島街中カフェ2号店 **オープン!**

立春の2月4日、GW三島では、三島街中カフェ2号店をオープンさせた。店名は、富士登山の人々が登山前にお参りする「浅間神社」(伊豆二の宮)の入り口に位置することから、「ZEROGO-ME」(0合目)とした。これはまた、新しい出発の意味も込めている。1号店の3店舗南隣である。

地域の高齢者から要望の多かった衣料や雑貨、韓国製の化粧品などを販売。野菜や総菜などが人気の1号店同様、地域の人々や観光客にも立ち寄ってもらえるお店として空き店舗を活用した「ZEROGO-ME」は、大いに期待される。オープニングセレモニーでは、豊岡武士三島市長の祝辞のほか、渡辺豊博GW三島事務局長が2号店雇用創出や地域の活性化などへの思いを述べた。



「三島ジオツアー講座」を開催



1月22日と26日に、GW三島の実践地である源兵衛川や境川・清住緑地等の地形・地質・歴史等について学ぶ「三島ジオツアー講座」を開催。講師は、増島淳静岡県地学会東部支部長。

講義では、ジオパークとジオツアー、日本列島と伊豆半島や三島の生い立ち、楽寿園や水の苑緑地、清住緑地の変遷や見どころについて丁寧な解説があり、富士山の溶岩流や御殿場泥流、天城山の噴火などについて分かりやすく学ぶことができた。また、講義後のフィールドワークでは、三島のジオサイトについて事前学習をしているので、さらに深く理解できた。

在東京海外大使館大使(13カ国)等が視察

2月14日、15日に「富士山の世界遺産登録」をテーマとし、在東京海外大使館大使等が「ふじのくに静岡」を訪問。15日には、GW三島の実践地も視察。小松幸子GW三島理事長が案内と説明をした。参加者から質疑もあり、最後に「活動が良く分かり、源兵衛川のきれいさに、とても感銘を受けた」と感想を述べた。



三島梅花藻の里では、インストラクターの島崎禮次さんが、作業の様子も実際に行って説明した。来訪された大使等の国々：アルバニア共和国(大使)、オーストリア共和国(商務専門官)、アゼルバイジャン共和国(一等書記官)、バングラディッシュ人民共和国(公使)、ベラルーシ共和国(大使ほか)、ボスニア・ヘルツェゴビナ(参事官)、ドミニカ共和国(公使参事官)、ケニア共和国(大使)、ラトビア共和国(大使)、モリタニア・イスラム共和国(大使)、ネパール連邦民主主義共和国(大使)、ルーマニア(大使)、タイ王国(一等書記官2名)ほか関係者 ー1ー

グラウンドワーク三島アクション図鑑



GW三島のロゴマーク

英国GWのロゴマークが使用できないと知り、独自のものを作成。「みんなで協力身近な環境改善」



第1回の英国GW視察

GW三島設立の翌年5月、英国GWを訪見し、一同目を見張る。プリンスパークで記念植樹。



中郷温水池の逆さ富士

富士山からの湧水は、源兵衛川を下り中郷温水池で太陽熱に温められてから、田園地帯へ注ぐ。



「こん虫館」の看板と！

生き物が大好きな子どもたちはいっぱいいる。手づくり看板を囲み、「こん虫館」前で記念撮影。



湧水が満水の小浜池

源兵衛川の源は、三島市立公園楽楽園の小浜池。かつては、いつもこの風景を楽しめたが...



おかえり！メダカたち！

静岡県立三島南高校の手づくりピオトープでは、リニューアル時にメダカを預かってもらっていた。



記念植樹のクレマチス

ロビン・ヘンショウ夫妻が沢地グローバルガーデンに植樹されたクレマチスは、毎年美しく開花。



地域再生大賞受賞

共同通信社と全国の地方新聞社が創設した賞の第1回目を受賞。川勝平太県知事に報告。



松毛川の河畔

狩野川の一部だった松毛川は、自然の宝庫。河畔林が美しく、後世に引き継ぎたい自然環境。



地球環境大賞受賞

フジサンケイグループ主催のこの賞の中の「環境地域貢献賞」を受賞。感激の記念撮影。



GW全国研修センター開設

GW三島と英国GWの協力関係強化を合意し、英国から講師を招き、開設記念シンポジウム開催。



日英シンポジウムの聴衆

日英のパネリストの発言に聞き入る聴衆。第3回の英国GW視察に参加した人々も発言。



ホテイアオイの除去作業

松毛川に外来種のホテイアオイが密集し始め、水辺を求め飛来する野鳥やトンボに悪影響が。



よみがえった源兵衛川

GW方式とも言える、市民、企業、行政のパートナーシップで、清流がよみがえった貴重な川。



「三島街中カフェ」オープン

街のにぎわい創出を願ってスタート。多くの人々が様々な特技を発揮して、まちづくりに貢献。



高校生ボランティア

静岡県立三島北高等学校の生徒たちは、昔からガーデン作業に参加。運動部が走って来ることも...



松毛川千年の森づくり

韓国から研修に来た高校生や大學生と千年の森づくりで、竹林の伐採や地元の樹木の記念植樹。



満開のソバの花

GW三島の農業再生事業で、農地を耕してソバ畑にし、「三島そば」を製品化して販売まで行う。



昔の機械でソバの脱穀

農業にふれる機会をと、昔の脱穀機で、ソバをきれいにする体験を子どもたちにも指導。



洗心亭・招福亭スタート

高齢者等の要望から、何でも気軽に相談できる洗心亭・招福亭が開かれる。専門家とも連携。



環境出前講座

植物、生き物等、様々な分野の専門家に講師になっていただき、インストラクターもお手伝いで参加。



みどり野ふれあいの園

地域住民が中心になり、周年事業も続けている。10周年記念で富士山が良く見えるアーチ設置。



富士山湧水インストラクター

三島市内にとどまらず、三島の湧水の源である富士山も学び、多くのインストラクターが誕生。



松毛川河畔の整備

竹林が伸び放題で、元々あった巨木にも丈夫な鳥が巻き付き、整備は大変な作業だった。



日英GWシンポジウム

英国GWの環境ビジネスが紹介された。『バイリンガル環境かるた』を体験してもらい盛り上がる。



自然観察会

親子で参加できる講座は、とても人気がある。説明を熱心に聞きメモ。親子の会話も弾むだろう。



源兵衛川でホタルの乱舞

清流のよみがえった源兵衛川では、5月上旬から6月上旬まで、ゲンジボタルを見ることが出来る。



三島梅花藻の里

環境のバロメーターとも言われるミシマバイカモを、佐野美術館の湧水池で育て、河川に移植。



富士山の眺めも抜群

子どもたちから「お花畑」と呼ばれる「みどり野ふれあいの園」は、きれいに整備されている。



魅力の野鳥観察会

鳴く声と飛ぶ姿と名前...なかなか結びつかないが、説明を聞き、順番に望遠鏡も使って観察。



GWインターンシップ

内閣府から委託された2年間の事業は人づくり。全国のGWの協力もあり、多くの成果をあげた。



三島野菜の販売も

三島の箱根側の山地は、根菜類の産地。農兵節も、その昔、これらの販売のPRに活躍したとか。



源兵衛川で自然観察

人気の体験学習。清流の自然度を維持するため、GW三島では専門家の意見も聞きつつ努力。



大学生の源兵衛川作業

大学生がスコップをもって作業。生き物にとって暮らしやすい環境を考えながら貴重な体験を。



「三島街中カフェ」移転

にぎわいに貢献している「三島街中カフェ」は、リニューアル移転。幅広い活用が期待される。



境川・清住緑地で田植え

「西小学校の田んぼ」の看板がある場所で田植え。秋には収穫祭で餅つきをしたり楽しい行事。



「宮さんの川」の秋

海外からの視察者を、紅葉の水辺にも案内。三島の多くの水辺で市民の力に感謝して帰られる。



「三島街中カフェ」喫茶部

「癒しの空間になっている」と、訪れた方々は、季節を感じながら、展示品を觀賞したり、ゆったり。



ワンコイン・パソコン講座

「三島街中カフェ」2Fでは、人気のワンコイン講座なども開催。白滝公園の眺めも素晴らしい。



源兵衛川で外来種除去

自然度の高い川に育てたいという思いがいっぱい。富士山からの湧水は冷たいが気持ち良い。



ミシマバイカモ

小浜池で発見されて名付けられた。流れている湧水で育つ。この花が縁で日韓梅花藻交流も。



函南さくら保育園のピオトープ

幼児のころから、豊かな自然のなかで過ごし、穏やかな時を経験することの大切さが感じられる場。



腰切不動尊のお祭り

江戸時代からのお祭りを、日本大学国際関係学部の国際協力研究会等がGW三島と復活。



長伏小学校のピオトープ

中庭の人工芝生がピオトープに变身。自然を学ぶ環境ができた。整備にも、気を配る。



そばつくり隊

味が良く人気の「三島そば」になった。熱心な指導で参加者も増加。年越しそばとしても注文が。



三島農村カフェ

設立1周年を祝う。日舞や琴、ハモニカ演奏等の後、地域の方々と一緒に美味しい手打ちそばを味わう。



GWインターンシップの支援者

2,400人の募集に、3,700人以上が申し込み。GW三島事務局に対してインストラクター等が業務支援。



座学あり、実学あり

環境学習は、座学で学び、実学で体験。専門家やインストラクターが講師を務めることも。



GW三島 15周年記念

協働による地球環境再生・国際シンポジウム開催。韓国と英国関係者はハナミズキを植樹。



大学生が寺子屋

東日本大震災の被災地で、GW三島に参加の大学生が先生役として子どもの学習の相談に。



手づくり品で震災支援

手作業の技の達人たちが、ホイッスルなど、木工や竹製の手づくり品を被災地に。



「ZEROGO-ME」誕生

富士山と縁の浅間神社に近いので1合目ならぬ0合目の意。「三島街中カフェ」の2号店で衣類等も。



鎧坂ミニ公園

GW三島の発足当初に手掛けた実践地。日英GW技術交流研修会のフィールドワークはここで。



被災地から富士登山に

避難所で体も気持ちも疲れている被災者に、「子どもを元気に！富士山プロジェクト」は大人気。



東日本大震災支援募金

いち早く支援募金。GW三島の様々な震災支援活動に賛同する団体や個人からも支援金が。

被災地で 52 名が起業！

グラウンドワーク・インキュベーション見本市

グラウンドワーク三島は、内閣府「復興支援型地域社会雇用創造事業」の一環として、グラウンドワーク・インキュベーションに取り組んでいる。被災地において、地域資源を活用した地元密着型の「小さな産業」を創出し、人と経済の元気を主導・誘発している。本事業の特徴は、三島市で開催したグラウンドワーク・インターンシップで、グラウンドワーク三島の先進事例を学び、自らの社会的課題を掘り下げたビジネスプランの研修を行い、幅広く社会企業家のマインドを育み、ビジネスプラン・コンペティションへの応募を促したことである。

約4倍の難関を通過して採択された起業家52名は、これまで3カ月半にわたって、専門家の指導を受けながら、起業準備を進めてきた。2月11日に石巻市で開催した「見本市」では、起業家52名が商品やサービスを紹介するパネルやサンプルを展示してPRし、東京などから来場したプロのバイヤーとの商談を進めた。会場には300名を超える来場者が訪れ、終日、大いに賑わった。50年、100年と続く企業を目指し、力強い一歩が踏み出された。



過ぎゆく三島 いっまでも その12

伊豆の歴史に魅せられた 戸羽山 満

とばやま かん

戸羽山 満 (明治40年～昭和62年 1907～1987) 郷土史家、作家、俳人。鈴木安吉、ひさの長男として東京に生まれ、幼年時代を静岡市で過ごす。生家は幕末、駿府に住んでいた元旗本。本名良雄。後に藤池はなと結婚して姓が藤池となる。戸羽山満はペンネーム。時代により名前を「かん」、「ひろし」と使い分けた。

早稲田大学で政治経済、特に幕末政治史を専攻。卒業後、朝日新聞記者を経て実録・史伝小説の創作と歴史の研究に専念。昭和7(1932)年、小説家・劇作家長谷川伸の推薦により文壇に紹介される。江戸研究を江戸学の大家・三田村鳶魚(えんぎょ)、俳人文学を芭蕉俳諧研究の権威・贅川他石(にえかわたせき)に師事。

朝日新聞記者として三島に派遣されたとき、伊豆に埋もれた歴史的事実とその価値の多さに強く魅せられ、その解明を志した。そのため他への転任を命じられたが固辞して退社。三島に居を定めることになった。

埋もれた郷土史発掘の必要性を説き、多くの名士の賛同を得て、昭和5(1930)年6月に「伊豆史談会」を結成。昭和9(1934)年11月から機関紙『郷土史』を発行。昭和12(1937)年には『伊豆史談』と改題し、戦時下の物資不足や財政困難を乗り越えながら発行を続けた。「伊豆史談会」は現在も活動を続けており、機関紙は平成25(2013)年1月で通刊142号を迎えた。

多数の郷土史研究の中でも『江川坦庵全集』が著名。江川坦庵研究の第一人者として高く評価されるきっかけとなった。全集の自序には「近世・日本文化史に不滅の光を残した江川坦庵の真価をアピールする義務を感じている」とあり、さらに「江川坦庵の伝記研究に取り組んで30余年、私の半生は殆ど幕末史と坦庵の研究に終始してきたといっても過言ではない」と記している。

俳人としては、学生時代より高浜虚子に認められるほどの才能を示し、「碧雲子」「碧山人」などと号した。創刊以来の『郷土史』、俳誌『湧水』、各俳諧誌などに作品を発表。俳句仲間で大の囲碁好きだった、さる老師の法要に向けた句碑が残っている。

献句 「石打って 晩鐘ひびけ 雁わたる」 碧雲山人

江戸物や歴史物『仁田四郎忠常』、股旅物『正伝大場の久八』『清水次郎長伝』など多くの著書を残したほか、『三島市誌』編纂、執筆、三島市郷土資料館建設など、三島の文化発展に大きく貢献した。

参考文献 『三島アメニティ大百科』(三島市発行)『江川坦庵全集』(全四巻 巖南堂書店発行)『伊豆史談』(伊豆史談会発行)『句集 春雷』(ご子息 藤池弘久さん発行)



グリーン・ジョブ研修 2012

第4回 12月1、2日

地域資源の再生・活用（遊休農地の整備作業）・生き物がすみやすい自然水路づくり（伊豆縦貫自動車道沿い湿地帯水路の魚類調査、水路計画想定ワークショップ1）

第5回 12月8、9日

地域資源の再生・活用（三島南高ビオトープの整備、里山の竹林間伐作業）、生き物がすみやすい自然水路づくり（水路計画想定ワークショップ2）

第6回 12月15、16日

15日：初めて電動工具を使う研修生が大半だったが、すぐにコツをつかみ、素敵な竹あかりが完成。

16日：午前には三島南高東側に建設中の伊豆縦貫自動車道に隣接する水路で自然観察会を実施。調査では、ホトケドジョウをはじめサワガニ、アブラハヤ、オニヤンマのヤゴ、アマガエル、ツチガエル、ガムシが見つけれられた。加須屋真講師から、この水路と周辺の水田湿地帯は、貴重な種の生息条件が整っている場所との説明があった。

午後は「三南トープ」の整備作業を実施。完成から9年近くが経過し、傷みが発生していた丸太橋の架け替え作業をした。山田健次後援会長の指導のもと、新しい丸木橋が完成した。ビオトープ内の木々の間伐もし、明るいビオトープになった。

第7回 1月12、13日

12日：「南高トープ」の第2回整備作業を実施。サイエンス部の部員や前田喜久子校長、教職員も参加し、山田健次後援会長の指導を受け作業開始。バリアフリーの丸太橋と通路が完成した。ビオトープ上流部の護岸の補強、北側に土止めとベンチを兼ねた間伐丸太を設置。

13日：自然水路造成計画ワークショップを開催。これまでの経過を共有し意見交換、里山公園づくりなどの具体的提案があった。



境川・清住緑地子どもグリーンクラブ

収穫祭と冬の自然観察会

12月16日、境川・清住緑地子どもグリーンクラブの収穫祭と冬の自然観察会が開催され、幼児から小学生まで50人ほどが参加。

子どもたちは「ちびっこチーム」と「大きい子チーム」に分かれ、餅つき体験と自然観察会を交代で行い楽しんだ。ついた餅は、境川・清住緑地愛護会のお母さんたちが、きな粉餅、あん餅、おろし餅にしてくれ、皆で味わった。

観察会ではアオサギ、セグロセキレイ、ジョウビタキ、カワウ、カルガモ、カイツブリ等が見られた。



地質たんけん

2月2日、静岡県地学学会東部支部長増島淳講師と共に、境川・清住緑地周辺のジオサイトを歩きながら観察。東側の崖では、2,900年前に富士山が大崩壊して発生した「御殿場泥流」が見られること、境川・清住緑地や丸池の大きな石は、この泥岩流であること等の説明を受けた。



腰切不動尊 1月例祭

1月28日、インストラクターやボランティアが参加し、祠の中や周辺を清掃。旗や幕を飾り、塩、米、花、供物を供え、お経を唱えて礼拝。



寒い中、大正5年生まれ的女性や東京在住の息子さんの参加もあり、5月の大祭での再会を約束した。

中学生の職場体験

日本大学三島中学校の2年生が、2月6日、7日に職場体験をした。1日目は、「ZEROGO-ME」や「三島街中カフェ」で掃除、商品並べやレジ打ちを体験。2日目はミシマバイカモや自然について学んだ。

「接客は、挨拶と笑顔が大切。三島の川やミシマバイカモなど自然を保つためには、ボランティアの活動が必要。自分もボランティア活動に参加したい」と感想を寄せた。



源兵衛川エコ・アグリ・スタディツアー開催



12月26日、県内の高校理科教員や市民が参加し、源兵衛川の水辺散策と生き物調査を行った。

水辺散策では、湧水の仕組み、環境悪化の経緯、ホトケドジョウやミシマバイカモなど、源兵衛川の生物多様性保全の取組みを学んだ。生き物調査では、第7ゾーンで魚類、水生生物を調査し、第8ゾーンや中郷温水池で冬の野鳥調査を体験した。

最後に、各分の専門講師から生き物調査のまとめと生態系について学び、小松幸子理事長からは源兵衛川の今昔について話を聞いた。

「三島そば」の新そば粉で そば打ち教室開催

箱根西麓の遊休農地を活用した「三島そば」作りは9年目を迎えた。箱根西麓ふるさと環境再生協議会と共に、川原ヶ谷に加え、今期は元山中地区でも栽培。8月下旬に種を蒔き、約160kgが収穫できた。

12月11日に、新そば粉を使ったそば打ち教室が三島農村カフェで開催された。「そば作り隊」に教わりながら、初心者もそばを打つことができた。均等に切ることは難しく、うどんのように太いそばも出来上がった。



12月29日には、年越しそば打ち教室が開催され、参加者20人が二八手打ちそば作りに挑戦した。今期のそばは高品質で香りも良く、各自4人前のそばを作った。また、大晦日には市内の食事処の協力を得て「年越し三島そば」を数量限定で提供した。



愛することは知ることから

郷土史研究者 土屋 寿山さん

三島市広小路町在住

大正 15 (1926) 年 2 月 20 日、田方郡北狩野村 (現伊豆の国市) の農家に生まれる。幼少より体が弱かったため、村内の臨濟宗・永明寺に預けられ、そこで育てられた。昭和 7 (1932) 年 (小学校 1 年) 満州事変、昭和 12 (1937) 年支那事変が勃発するなど、日本が急激に軍国化していくなか典型的な軍国少年として育っていった。

昭和 20 (1945) 年 2 月、19 歳の時、徴兵検査を受けたが、健康上の理由で兵役には服さなかった。同年、臨濟学院 (現花園大学) に入学、昭和 25 (1950) 年 3 月卒業後、昭和 26 (1951) 年 4 月、三島市役所に入所。水道課に配属され、「水の都」三島湧水の歴史と実態とを知り関心を深める。翌 27 (1952) 年結婚。昭和 30 (1955) 年 4 月より教育委員会に配置換えとなり社会教育を担当。主として市誌編纂の仕事に携わった。昭和 31 (1956) 年には、市から派遣され、東京教育大学教育学部研修課程で 1 年間学び、社会教育主事の資格を取得した。教育委員会には昭和 35 (1960) 年まで 5 年間在籍したが、この間、三島や伊豆の歴史について学んだことが後々の生き方にまで大きな影響を与えたという。市誌編纂がきっかけで、考古学者である日本大学の軽部慈恩教授や、師と仰ぐ戸羽山瀚と出会い、「伊豆史談会」の会員になったのもこのころであった。その後、企画財政課長、市民部長、総務部長、水道課長を歴任し、昭和 58 (1983) 年退職。

退職後も“世話になった三島市にお返しのため”で郷土史の研究、発掘に尽力。現在も、「伊豆史談会」「三島宿研究会」に所属し、江戸時代から伝わっている貴重な古文書の解読研究を続けている。「愛することは知ることから始まる」を終生のモットーとし、郷土を愛するためには先ず郷土を知ることではないかと熱く語る。

昭和 30 年代の三島は、市のいたるところを網の目のように「水」が流れていた。まさに「水の都」そのものだったと当時を振り返る。しかし、いくつかの工場の進出に伴い、工業用水を大量に使用するようになるや、たちまちにして三島の「水」は枯渇してしまった。亜鉛公害等も経験し、自然の大切さ、「水」のありがたさを他のいかなる住民よりも痛感してきたはずである。その経験が役立ったのがコンビナート誘致反対であったという。三重県の四日市市に視察に出かけ、公害の現状をつぶさに見てきたのも大きかったという。

逆に新幹線誘致には積極的に打って出た。東海道線が沼津から御殿場、国府津経由であった時代、すすきが原 (現下土狩) に豆相鉄道 (現伊豆箱根鉄道) を誘致した時代等の経緯を経て、町の発展にとって鉄道の果たす役割の大きさを知ってきたからこそ、新幹線誘致へ積極的に動いたのだといい、これも歴史的教訓であり、「歴史を学ぶことは今を間違えないため」と語る。

混迷の時代、今を生きる上での指針として歴史を学ぶ大切さを教えてもらったようだ。それにしても旺盛な知的好奇心や、郷土に対する強い愛着心に大いに感銘を受けた。

著書：『ふるさとの街道・箱根路』土屋寿山 稲木久男 共著

『ふるさと三島』土屋寿山 稲木久男 共著

『住民運動と奉仕』『三島市誌 (天災地変執筆)』『三島大社 装飾彫刻の物語』



最近の三島市街地 (伊豆の玄関口・三島駅南方面を望む)



粗くして野
なれど卑に墮さず

【寄稿】 ^{やまだ}山田 ^{かつぞう}勝造さん

昭和 20(1945)年、西伊豆町に生まれる。終戦間もない
というのになぜか名前は勝造。「親父は敗戦を知らなかつた
のではないか」と思ったこともある。小さい頃は病弱
で、いつも祖母が面倒を見てくれた。「一番になるとみんな
ながら妬まれる。三番や四番では恥ずかしい。二番くら
いがちょうどいい」というのが祖母の口癖。何をやって
も今一步なのはこの辺りが原因か。

昭和 44 (1969) 年、教師になり、8つの高校に奉職。「人
生いたる処青山あり。我が行く処みな母校」を旨として
生きた。37年間の教師生活を振り返ると、いい生徒にも
恵まれ、己の利害得失を考へることなく、かなり伸び伸
びと生きられたことは福音だったと思う。粗野な生き方
しかできなかったが、卑屈に墮さないことだけは心がけ
たつもりである。

10年前、心筋梗塞で倒れ九死に一生を得た。以来、「こ
れからは丸儲けぞよ娑婆遊び」という一茶の句のごとき
人生を送ろうと思った。しかし、根が真面目なのか、な
かなか達観できず、中途半端な日々を重ねてきた。ひた
すら歩く「只管打歩(しかんたほ)」の毎日で、無事息災で
いられることは大病を経験したお蔭か。「散りぬべき時知
りてこそ 花も花なれ、人も人なれ」。散り際を考へるこ
とも増えた。

たまたまGW三島理事長の小松幸子氏と高校時代の同
級生という偶然にめぐまれ、昨年からGW三島編集室の
手伝いをするようになった。周りは素敵なお婦人ばかり
で、少しのことにも娘のようにコロコロと笑う。昨今、
我々男どもは笑いが少ないように思うが、考えすぎか。
笑門来福。残りの人生、せめてワハハといきたいものだ。

GW三島も 20 周年を迎えるとか。この道程には、数え
きれないほど多くの人々の善意が埋め込まれているはず
である。地道に無償の献身をささげた声なき人々に最大
限の敬意を表したい。

シニア世代の社会貢献

^{ひご}肥後 ^{じつや}実哉さん



出身地は、砂蒸し温泉で有名な鹿
児島県指宿市。京都で就職した会社
の転勤で三島市に在住して 44 年。
現在は 5 人家族で三島市旭ヶ丘在住。

GW三島へは、7年ほど前に友人が持ってきた「せ
せらぎ元氣工房のボランティア募集」のチラシを見て、
内容に興味を持ち入会した。以来、工房で知り合った
仲間たちと、不要竹林で伐採した竹を用い、竹あかり、
くつべら、しゃもじ、トンボ、竹笛等を製作し一部商
品化して販売したこともある。

肥後さんの手がけた作品は、どれも丁寧な細工が施
されている。竹垣や手水鉢などを配した箱庭を、三島
街中カフェに展示したところ、「緻密で素晴らしい作品
ですね」と来客から称賛された。

また、三島のイベント「ホテルまつり」や「初午ツ
アー」などにも竹あかりを展示したり、GW三島の研
修生や子どもたちに作業の実技指導をするなど、活動
にも積極的に協力をしている。

今後のGW三島に期待することは、「シニア世代で、
社会貢献をしたいと思っている人は多いと思うので、
GW三島への活動参加がそのきっかけ作りになればあ
りがたい。もし、少しでも固定した仕事があれば、新
しく入ってきた人たちの定着も図れるのではないだろ
うか。また製作した作品の展示場所があれば、一目で
仕事内容が分かるのでPR活動にもつながると思う」。

毎週火曜日には加茂川町にある「せせらぎシニア元
氣工房」へ通い、自分の好きなことを教え教わりなが
ら、竹や木で作品を作っている。「納期も拘束もない自
由な時間を共有できるこの日が好きだ」と肥後さん。

モットーは健康第一。趣味は、海釣り、家庭菜園、
ハイキング、旅行、料理等と多彩である。

パッション No. 15

認知症サポーター養成講座&よろず相談 スタート

12月8日、GW三島と遊水匠の会(洗心亭)の主催で、「第1回認
知症サポーター養成講座&よろず相談」が三島市富士ビレッジ自治会集
会所で開催され、大盛況でした。遊水匠の会代表の小浜修一郎さんの挨拶
で開会し、三島市長寿介護課高齢者福祉係登録講師の湯山藤枝さんから
「認知症を学び地域で支えよう」という講義を受けました。その後グル
ープに分かれ、介護の実体験や質問、情報交換をしました。参加者へ
は、認知症サポーターのオレンジ色のリストバンドが手渡されました。

「認知症は病気であることを理解し、病院にかかることが大切です。
最近では認知症介護(認知症同士の介護)が増え、本人たちが気付かない場
合も多く、家族や地域のサポートが必要です。ぜひ、若い人たちにも受
講してほしい講座です。今後も各所で開催を予定していますので、お気
軽にお問い合わせください」と小浜さんは述べています。

お問い合わせ先 ☎ 090-5037-0010 (遊水匠の会 小浜さん)

☎ 055-983-0136 (GW三島 加藤さん)

開催協力(敬称略): 三島市長寿介護課、木野 紀(認知症サポート医)、
杉山 聡子(歯科衛生士)、鈴木 優子(介護支援専門員)、ほほえみの会、
遊水匠の会&幼老活き生き支援隊、パルスシステム静岡、特定非営利活動
法人ふじのくにまちづくり支援隊



三島市内の写真集

撮影者：村上 茂之
 撮影場所：源兵衛川希少種水族館
 (GW三島事務局内)
 ひとこと：よ〜く見てね!! 私は
 源兵衛川からやって来た新顔の
 ヒラテテナガエビです。
 アメリカザリガニと間違えないでね。



【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、
 撮影場所、撮影年月日に一言添え、Eメール
 に添付してGW三島事務局までお寄せ
 ください。Eメール: info@gwmi-shima.jp

ご寄付をありがとうございます!

「子どもを元気に! 富士山プロジェクト」ほかGW三島の活動のために
 *チャリティーコンサート in
 みしまプラザホテル 113,500 円
 *三島市立北幼稚園 P T A 手芸
 サークル・スマイル 10,000 円
 *募金 (個人3人と2団体) 23,329 円
合計 146,829 円

GW三島活動記録 2012年12月1日-2013年2月28日

| 月 | 日 | 曜日 | 事業名 | 内容 | 場所 | 人数 |
|----|----|----|----------------------------|--------------------------------|-------------------|-----|
| 12 | 1 | 土 | ふるさと三島・農と街中連携協議会(12/1-2) | グリーン・ジョブ研修④ | 三島市内 | 12 |
| 12 | 2 | 日 | 大場地区里山自然公園構想 | 水路の魚類調査 | 三島南高東側湿地帯・水路 | 24 |
| 12 | 8 | 土 | ふるさと三島・農と街中連携協議会(12/8-9) | グリーン・ジョブ研修⑤ | 三島市内 | 18 |
| 12 | 9 | 日 | 洗心亭 | 認知症サポーター養成講座&よろず相談会 | 富士ビレッジ自治会集会所 | 30 |
| 12 | 10 | 月 | 松毛川子どもグリーンクラブ | 松毛川千年の森づくり 植林作業 | 松毛川 | 10 |
| 12 | 11 | 火 | そばづくり隊 | 第1回三島そば・そば打ち教室 | 三島農村カフェ | 20 |
| 12 | 15 | 土 | ふるさと三島・農と街中連携協議会(12/15-16) | グリーン・ジョブ研修⑥竹あかりづくり、南高トープ整備作業など | 三島市大場 | 28 |
| 12 | 16 | 日 | 大場地区里山自然公園構想 | 湿地帯・水路の自然観察会 | 三島南高東側湿地帯・水路 | 35 |
| 12 | 26 | 水 | 水の都・三島街中再生協議会 | ⑦収穫祭と冬の野鳥・植物観察 | 境川・清住緑地 | 80 |
| 12 | 29 | 日 | そばづくり隊 | 年越しそば打ち教室 | 三島農村カフェ | 30 |
| 1 | 12 | 土 | 松毛川子どもグリーンクラブ | 援農体験(麦畑除草作業) | 御園園場 | 10 |
| 1 | 13 | 日 | ふるさと三島・農と街中連携協議会(1/12-13) | グリーン・ジョブ研修⑦南高トープ整備作業等 | 三島南高 | 11 |
| 1 | 18 | 金 | 洗心亭 | 認知症サポーター養成講座&よろず相談会 | 三島南高 | 20 |
| 1 | 19 | 土 | 鎮守の森探検隊 | ⑧雪原探検・青木ヶ原の動物の足跡探し | 富士河口湖町・青木ヶ原 | 20 |
| 1 | 20 | 日 | 箱根西麓ふるさと環境再生協議会 | 竹取物語①竹林間伐、四つ目垣用青竹取り | 三島市川原ヶ谷・竹林 | 15 |
| 1 | 22 | 火 | インストラクターフォローアップ研修 | 三島ジオツアー講座①座学 | Via701・1階ホール | 17 |
| 1 | 26 | 土 | インストラクターフォローアップ研修 | 三島ジオツアー講座②フィールドワーク | 三島市内 | 20 |
| 1 | 27 | 日 | 箱根西麓ふるさと環境再生協議会 | 竹取物語②竹林間伐、四つ目垣用青竹取り | 三島市川原ヶ谷・竹林 | 10 |
| 1 | 28 | 月 | 腰切不動尊 | 腰切不動尊1月例祭 | 腰切不動尊 | 10 |
| 2 | 1 | 金 | 松毛川子どもグリーンクラブ | 援農体験(麦ふみ作業) | 御園園場 | 10 |
| 2 | 2 | 土 | 境川・清住緑地子どもグリーンクラブ | ⑨境川・清住緑地の地質たんけんまとめ | 境川・清住緑地 | 12 |
| 2 | 3 | 日 | 箱根西麓ふるさと環境再生協議会 | 竹取物語③竹林間伐、四つ目垣用青竹取り | 三島市川原ヶ谷・竹林 | 10 |
| 2 | 4 | 月 | 三島街中カフェ2号店「ZEROGO-ME」オープン | 衣類、バック、韓国化粧品、地元乾物の販売開始 | 三島市内 | 20 |
| 2 | 6 | 水 | 職場体験(2/6-7) | 日本大学三島中学2年生 | 三島街中カフェ、三島梅花藻の里など | 1 |
| 2 | 9 | 土 | 鎮守の森探検隊 | ⑩冬鳥の観察 | 楽寿園 | 15 |
| 2 | 9 | 土 | 鎮守の森探検隊 | ⑩まとめ発表会 | Via701 | 18 |
| 2 | 10 | 日 | 水の都・三島街中再生協議会 | 竹あかりと地口行灯イベント | 三石神社 | 20 |
| 2 | 10 | 日 | 箱根西麓ふるさと環境再生協議会 | 竹取物語④竹林間伐、四つ目垣用青竹取り、チップ化作業 | 三島市川原ヶ谷・竹林 | 10 |
| 2 | 11 | 月 | グラウンドワーク・インキュベーション | 見本市 | 石巻市 | 320 |
| 2 | 16 | 土 | 松毛川子どもグリーンクラブ | 松毛川千年の冬鳥観察と水質調査体験 | 松毛川 | 10 |
| 2 | 16 | 土 | 松毛川子どもグリーンクラブ | 松毛川千年の森づくり・子ども講座 | 中郷文化プラザ | 15 |
| 2 | 17 | 日 | 箱根西麓ふるさと環境再生協議会 | 竹取物語⑤竹のチップ化作業 | 三島市川原ヶ谷・竹林 | 8 |
| 2 | 23 | 土 | 水の都・三島街中再生協議会 | 三島街中開運御利益ツアー(エコ・アグリ・スタディツアー) | 源兵衛川、三島市内 | 18 |
| 2 | 23 | 土 | 箱根西麓ふるさと環境再生協議会 | にぎわい再生イベント(そば打ちと馬鈴薯植え付け) | 三島農村カフェ・元山中園場 | 30 |
| 2 | 24 | 日 | 源兵衛川ふるさとの川づくり | 源兵衛川第7ゾーン環境再生ワンデイチャレンジ | 三島市川原ヶ谷・竹林 | 15 |

視察来訪者記録 H24.12.1 ~ H25.2.28

| 月 | 日 | 団体名 | 人数 | 地域 |
|----|----|--------------------------------------|----|-----|
| 10 | 12 | 青少年育成都留市民会議 | 20 | 三島市 |
| 11 | 4 | 慶応義塾大学福沢諭吉記念文明塾環境プログラム | 4 | 東京 |
| 11 | 27 | JICA東京国際センター | 4 | 東京 |
| 12 | 2 | 三島地区BBS会 | 20 | 静岡 |
| 12 | 10 | (社)知識経営研究所 | 3 | 東京 |
| 12 | 13 | 愛知県安城市新田町農用地利用組合 | 30 | 愛知 |
| 2 | 5 | 北名古屋市民議会市政クラブ | 15 | 愛知 |
| 2 | 8 | (社財)日本経済研究センター地域創造研究会 | 8 | 東京 |
| 2 | 15 | 静岡県東京事務所・国際交流サービス協会 (大使館関係者対象ツアー) | 25 | 海外 |

チャリティーコンサートの収益金 「子ども元気に富士山プロジェクト」に



12月17日、みしまプラザホテルでヴォイス・オブ・インフィニティのゴスペル・チャリティーコンサートが開催されました。歌声は、クリスマスムードいっぱい会場を魅了。テーブルの飾り付けも人気。プレゼンターは同ホテルで挙式の新婚カップルで、小松幸子GW三島理事長に収益金113,500円が手渡されました。「東北の子どもたちのために使わせていただきます」とお礼を述べました。

(社)D&I知識経営研究所・視察

12月10日、韓国の韓中(ハンジュン)大学関係者らが、GW三島の活動を視察。「三島街中カフェ」2階での説明後は、実践地へ。今後、両国のNPO同士の交流も期待できると話が盛り上がりしました。



予告 GW三島設立20周年記念シンポジウム開催

日程：3月16(土)10:00~実践地視察(オプション)、13:00~式典、
 15:45~記念講演 18:00~20:00 大交流会
 3月17(日)9:30~分科会、13:00~報告、パネルディスカッション
 15:00~16:00 総括と新たなネットワークづくりへの提言
 会場：日本大学国際関係学部 JR三島駅北口新校舎(JR三島駅北口徒歩1分)

GW三島事務局の

新スタッフ



こさい よしみつ
 小齊 吉光

「三島街中開運御利益ツアー」~富士山の日記念~

2月23日、好天のこの日のツアーは、三島街中カフェ南側の浅間神社を出発。富士山の話聞いてから、開運御利益を願い、神社や寺を回りました。本覚寺のお日朝さん、蓮馨寺の日隈地蔵尊、三石神社、日隅神社など、各所で興味深い話が続きました。

案内役は、城所徂帝さん、小松幸子さん、増田百枝さん、佐藤晴代さん。清々しい気持ちになって、全員、ゴールの三嶋大社へ到着。



グラウンドワーク三島編集室 ボランティアニュース49号編集ほか (50音順)

加藤 美穂 岸野 和子 城所 徂帝 小松 幸子 斎藤 彩子 本田 博子 前田 充子
 水野 幾子 村澤 圭 山崎多紀子 山田 勝造 (GW三島事務局担当:村上 茂之)

(定例作業)

三島梅花藻の里.....5回
 鏡池ミニ公園.....3回
 桜川.....3回
 宮さんの川.....毎日
 源兵衛川.....15回
 沢地グローバルガーデン.....3回

(定例会)

インストラクター会議...2回
 編集会議.....14回